

【主題名】 その人のために 【教材名】 最後のおくり物

【本時のねらい】
 ジョルジュじいさんやロベータの姿を通して、相手の状況を把握し、相手のためになる行動を考え、実行することのよさに気付かせ、思いやりの心を持ち、親切にしようとする心情を育てる。

【指導の要点】
 自分がどうすることが相手のためになるのかについて考えさせる。相手のことを考えるとは、相手の状況や立場を知り、本当に相手のためになるか考えたうえで、できる限り最善を尽くし、その人のために行動することであると気付かせたい。

【主題に関わる児童生徒の実態】
 授業中や休み時間には、困っている友達がいると積極的に声をかけ、助け合いや支え合いができる学級である。困っている友達がいれば声をかけたり、相手が必要な時に手を差しのべる姿が見られる。しかし、その行動が本当にその人のためになっているのか、本当に相手の手助けになっているのかは十分理解できていないと考える。

【授業を通して引き出したい児童生徒の考え】

- ・思いやりとは、相手の力に繋がる行動ができていること。
- ・相手のためになるように、精一杯手助けしていくことが大切。
- ・すごいことはできなくても、自分のできることを考えて手助けしていくことが大切。
- ・自分が経験したことを考えながら、それを生かして、その人のために行動する。
- ・最善を尽くすことで、相手が幸せになる行動をとりたい。

指導上の工夫 板書計画（ポイントのみ）

自分自身との関わりで考えるための工夫

事前に自分がしたことやされたことがある親切についてアンケートをとり、今考える「思いやり」について振り返りをさせる。展開後段で、自分自身が考えていた思いやりとジョルジュじいさんから学んだ思いやりを比較して考える場を設定した。

多面的・多角的に捉えるための工夫

ロベータの視点に立って考えることで、ロベータが感じたジョルジュじいさんの思いやりの深さに気付かせるための場を設定した。

主題に迫るための工夫

授業前に考えた思いやり→ジョルジュじいさんの視点に立った思いやり→ロベータの視点に立ったジョルジュじいさんの思いやりという思考が徐々に深まる授業展開にする。

思いやり

- ・相手に自分のことのように考え、行動すること
- ・相手の力に繋がるか考える。
- ・自分のできる限りの思いやりが自分や相手の力に繋がる
- ・何に困っているか、状況を知って、自分がどんな

なぜ、息子と言ったのか。

どうして、このような行動ができたのか

最後のおくり物

- ・困った時に助けてくれた
- ・励ましてくれた

相手の状況を知って、少しでも助けたら。親身になって、自分の事を考えてくれたから。

名前を言うと、ロベータは使ってくれなくなる。自分のことを心配してしまうから。

今まで、自分のために助けてくれたから。自分の事を親身になって考え、支えてくれたから。自分の命を削ってまで、自分のことを助けてくれたから。

【学習指導過程】

	学習活動と主な発問（○）、補助発問・問い返し（◆）、留意事項（・）	児童生徒の反応
導入	○人の思いやりを感じたことあるかのアンケートの結果を紹介する。 ・困った時に、優しくしてくれた ・友達のことを考えて伝えた ・悩んでいる時、友達が声をかけてくれて安心した。	・人からの思いやりの気持ちを受けると、どんな気持ちになるのか考えさせ、自分自身の生活を振り返る。
展開	○どうして、ジョルジュじいさんはロベータにこのような行動ができたのか。 ◆なぜ、自分の名前を言わなかったのか？ ○どうして、ロベータは「息子です。」と言ったのでしょうか。 ◎「思いやり」とは、何だと思いますか。 ○授業前に感じた「思いやり」について振り返り（アンケート）、今日学んだ「思いやり」について考える。	・ロベータの役に立ちたいと思ったから。 ・自分と同じ経験（俳優の夢）をしていたから、少しでも力になりたいと思ったから。 ・相手の立場や状況を知って、助けたいと思ったから。 ・相手の事を自分の事のように思い、親身になって考えたから。 ・ロベータがジョルジュじいさんのことを心配してしまうから。 ・名前を言ってしまうと、ロベータは使わなくなるから。 ・自分のために無理をしてまでお金を作ってくれたから、感謝の気持ちを伝えたいと思ったから。（恩返し） ・自分のことを親身になって支えてくれたことに心打たれたから。 ・自分の命を削ってまで、自分（ロベータ）のために懸命に行動してくれたから。 ・何に困っているか、状況などを知り、自分がどのような手助けをしていくか考えていく。 ・自分のできる範囲で手助けしていく。 ・相手を自分のことのように大切に思い、相手の力になるか考えている。 ・自分ができる最善の思いやりが相手のためにつながる。
終末	○教師のお話を聞く。	

【評価の視点】

- ・ 2人の立場に立って考えることで、思いやりについての考えを広げている。（多面的・多角的）
- ・ 相手のためになるような思いやりについて自分なりに考えをもち、最初の考えと比較しながら考えている。（自己とのかかわり）